

通記百人一首同担硯



天智天皇

神の御子

くさくさ

くさくさ

かきくさ

かきくさ

かきくさ

かきくさ



35274

孝統天皇

まの雨をわす

のこるま

きりうき

ねりもてふ

あまの

かづ

柿本人

るせもて

いゆはるもて

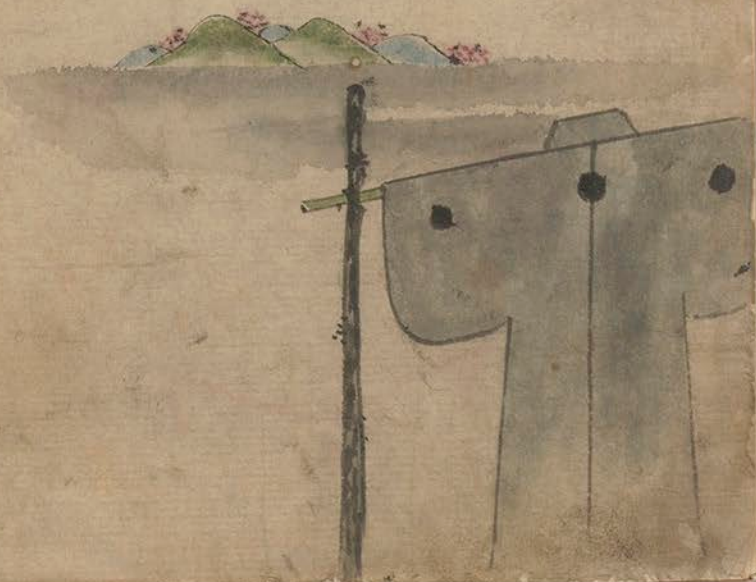
頃城の

かづ

いふ

かき

かき



山邊亦人

沖棚へ

とくさる境清

志路多へ

月の高松小

田さ

月さ

横丸太夫

ささる環を

ささるしりへ

鳴虫清

夢さるさるを

おき

おき



中納言御持

此は

一

の

あ

は

あ



安徳仲磨

い

あ

う

あ

二

あ



新撰法師

あつては

あつては

あつては

世

あつては

あつては



あつては

あつては

あつては

あつては

あつては

あつては

あつては



蟬丸

頑城の

つる枕の

かた

ら

あら

らぬも

ふくらの雲

巻紙巻

風あらく山登

らふきの

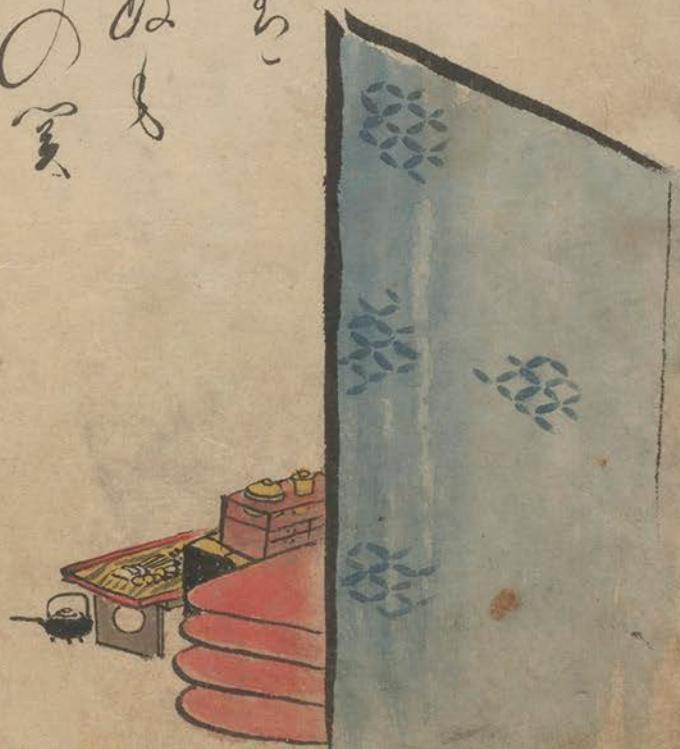
らふきの

人がはな

あふ

はな

はな



傳正通照

かろね堂

うね

おの

河内徳か

ひなの家

ふりしき



陽成院

うね

河那屋

ふり

おの

かろね

ふりしき



河原泥人伝

女房のふんき

あさに

もま心

みしそん

あ

あ

あ



光孝天皇

せりあま

正月もの

ういそ

我あ

あ

あ



中洲を行く

子供等が

ちと張

あけ

あけ

あけ

今よりこん



五原業平朝臣

夏もぬき

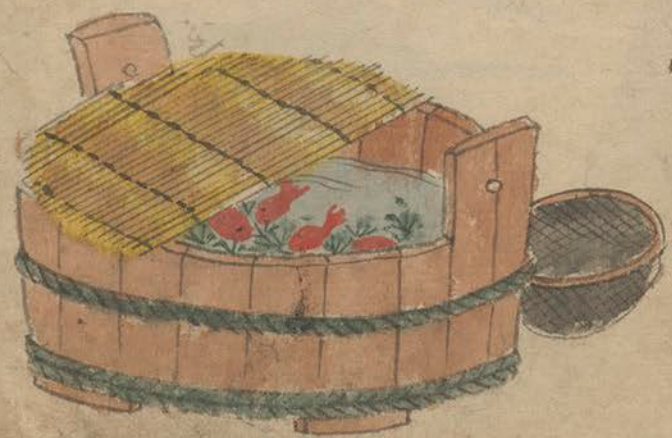
金魚も

市小並回

かき

あけ

は



藤原敏行親王

しるふ
いづれかの
もやうに
ゆきのうみ
人のこころ



何處か

のこころ
いづれかの
もやうに
ゆきのうみ
人のこころ



元良親王

やうてあつたに

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



素性法師

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



二
五
一
七
八
九
十

三

五

名

玉函山志

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



大江千里

卷一

新
地

63
9

我々の

張氏



菅家

神もあつても

あつてもあつても

にいつても

おまの

あつても

あつても

あつても



二條右大臣

あつてもあつても

あつてもあつても

あつてもあつても

あつてもあつても

あつてもあつても

あつてもあつても

あつてもあつても

あつてもあつても



貞信公

あか

なる

家かこふ

しん

今一多いの

み

しん



中羽と並補

子とと

も

あ

あ

い

し



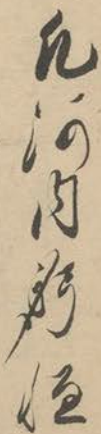
三

三

飛鳥山

人

三



卷之四



の

江

わさき

山氣のふか



七五九

唐のもの

鳥の歌ふ

やういふ

あつた

うゝ

うゝのうゝ



坂上は別

うゝ

花のうゝ

ハル

うゝのうゝ

うゝのうゝ



春道判樹

わろ庭

あそびの

あそび

あそび

あそび

あそび



紀文判

せんたの

律回拍

きぬわ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ



夜原具凡

いふのいふも

かゝるも

あつたの

荒神の

ねむりの

友だち

い



紀貫之

かゝるも

世帯

あつた

も

いふの

いふも

あつたの

あつた



らん
 月々々々
 きのうのころが
 我の友
 野々々々
 心々々々

源原源原



文原源原
 心々々々

心々々々
 心々々々
 心々々々
 心々々々



右近

かきく

すゝめ

あつ

人のいのちの

あつ

あつ



参候等

かきく

あつ

あつ

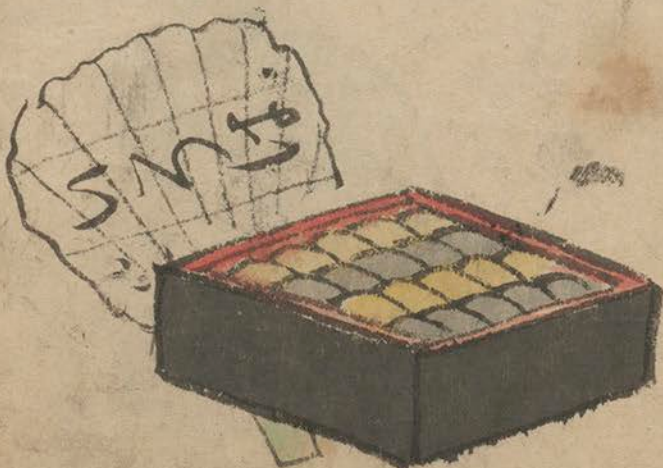
あつ

あつ

あつ

あつ

あつ



平為盛

頼杖がなる

なるなるなる

もい

のうらな

人のうらな



いすゑん

一のうらな

のうらな

夏の

もん

人

のうらな



法原元甫

冬かみち

らんり

あんえ

あんざん

みんぞ

まのまの

ふんぞり

やい



中納言歌志

後悔とささふ

あせそ

光の夜

し

の

の

の



中洲と朝光

あしらの

あしらの

あしらの

人

あしらの

あしらの

あしらの



福徳公

あしらの

あしらの

あしらの

あしらの

あしらの



あはれ

かき

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



源三郎

やきやき

あひぬ硝子

かき

く

の

あ

あ

大平伝能宣親臣

く

く

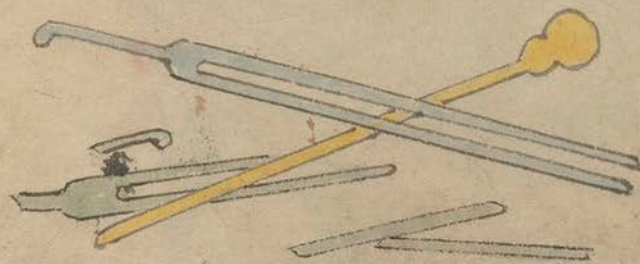
く

く

く

く

く



夜原義孝

ぬふふふ

そのうた

日のあ

なつとも

うか

ふいふ



夜原義孝

ふふふ

二日のあ

ふふのうた

さう

ふふ

ふふ

ふふ



藤原道信親王

花のうしろを

いそぐ

かた

の

うしろ

を



灰將道隆母

うしろ

の

うしろ

を

いそぐ

の

うしろ



後回二日舟

うづりて

人のもの

ちとせ

と

うづりて

うづりて

命と

大洲公任

うづりて

ちとせ

と

うづりて

うづりて

うづりて

うづりて



和泉式部

蘇我氏の

あふささ

あふささ

あふささ

せ

あふささ

あふささ



和泉式部

蘇我氏の

あふささ

あふささ

あふささ

あふささ

あふささ

あふささ



大ニ二位

目も安らぐ

さうふさふさ

老衆の

いそいそ

人をも

いそいそ

いそいそ



赤澤屋

さういふ

さういふ

さういふ

さういふ

さういふ

さういふ

さういふ



ふた郎内侍

りの恋

ふ一安の

そのらハ

あーあーと

えい

あーあーの

えい

えい



伊勢大輔

えい

あーあー

えい

えい

えい

あーあー

えい

えい



清少納言

ふせん

あそび

その

ふ

ふ

ふ



ふ

かん

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび



燈中洞玄定頼

西王の元火

一別千金の

つれ

せり

あつ

相換

あつ

もの

あつ

あつ

あつ

あつ



お大僧正のう

まゝのう

まゝのう

まゝのう

の

まゝのう

まゝのう

まゝのう



圓明内侍

まゝのう

まゝのう

まゝのう

まゝのう

まゝのう

まゝのう

まゝのう

まゝのう



二條院

ふんのや

ちやうらん

うしし

もし

も

ふし

ふし

夜半の

月



能国法師

ふんさの

ふんさの八

ふんさの

ふんさの

ふんさの

ふんさの

ふんさの



五蓮法師

かへきしう

こけいしう

かへきしう

かへきしう

かへきしう

かへきしう



かへきしう
かへきしう

かへきしう

かへきしう

かへきしう

かへきしう

かへきしう

かへきしう



その
めいし

かき

い

い

い

祐子内親王の御



あき

ら

い

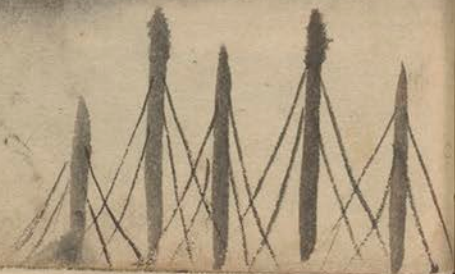
い

あき

い

い

い



源後頼朝

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり



友原基俊

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり

いづのり



あゝ波

あゝ波

あゝ波

あゝ波

法性寺入道家老入道

常徳院

美の海

紀の路

大和路

みちの

あゝ波

あゝ波

あゝ波



源急昌

もろい乳か

きんぐい

きんぐい

心

いんぐい

いんぐい



久米多頼

あやめ

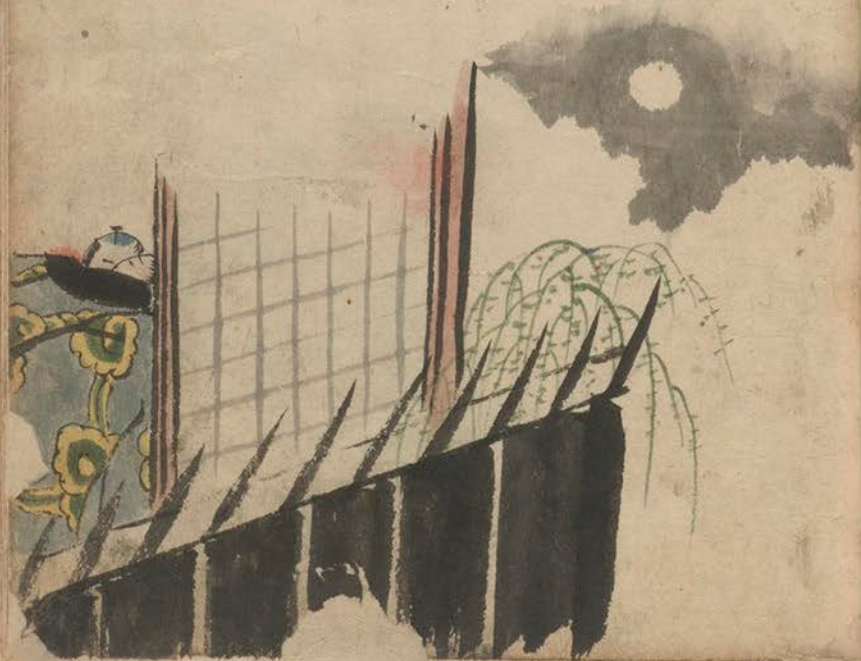
あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ



清賢の院境川

あきふか

よみゆき

かきよき

あきふか

あきふか

あきふか



後述大寺の庭

あきふか

あきふか

あきふか

あきふか

あきふか

あきふか



た国法師

そとあつてもい

あつてもい

あつてもい

あつてもい

あつてもい



望人店官を又後家

吸おのももろい

あつてもい

あつてもい

あつてもい

あつてもい

あつてもい

あつてもい

あつてもい



藤原法親の臣

筑ふんふん

身ふふふ

花めめ

しき

見し

今ふ

しき



しき
しき
しき
しき

おのふ

ふふふ

ふふふ

後法師



為新法師

自來るを

もてあかす

もつとまは

わいら 顔なる

水調り



新道法師

新なるうゝの

首の

あきい

もつとまは

の

あきい



皇前院別殿

竹あもり

山ととも

こゝろ

弦取も

をひく

とも

あゝあゝ

こゝろ



あゝあゝ意圖

わゝゝゝ

意図を

あゝゝ

神のあゝ

あゝゝゝゝ

あゝゝゝゝ

ゝゝ



入道おたけ大匠

うしろの

くろくろ山

えびの

りく

りく

おきなり

り



後京極殿おたけ大匠

おやうき

きりんの扇の

いりやう

いりやう

かき

おき

いりやう



二葉院讀文

海のほとけ

永く

もむ

い

人

か

あ



鎌倉石大匠

い

い

人

あ

の

い

あ



冬候新恒

秋もろや

うつゝいふもの

の

月のおお

あふゝいふもの

いふもの



檀中洞玄定家

いふもの

あふゝいふもの

いふもの

あふゝいふもの

いふもの

あふゝいふもの

いふもの



ふり
あつた
夏の
ふりかへて
さうな
の
うらめし
い
正二位

或子肉親王

てゐるが

九

あひだ

[Handwritten signature]



うき
いろ
め
め
め

おろし
あけの
白あ

殷富の院を捕



後
いん
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ



順徳院

石のつら

内室の

つら

あつた

か

あつた

あつた



